

# 2020年2月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時  
2020年2月8日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所  
(有) アイテック・インターナショナル

3. 参加者<敬称略>出：出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	書	牧野	出	横尾	出	山口	出	杉浦	出	三浦	欠	城越	欠	中山	出
合田	出	佐藤	出	伊藤	出	舟山	出	石上	欠	岡田	出	出島	出	福田	出
宮崎	欠	李	欠	河合	欠	奥村	出	水田	出	大木	欠	小西	出	小峰	欠
雲丹亀	休	林(千)	休	則尾	休										

4. 研究会内容

**1) 輪講 ロバスト設計のための機能性評価第6章 (大見)**

ウェザーストリップを例にした、「チューニング(機能設計)の方法」の内容。ゴム素材のウェザーストリップのシール特性を「変位 $y$ -圧力 $M$ 」のHookeの法則で解く内容であった。

**2) 発表①: 「品質工学とのかかわり」 (横尾)**

開発担当者がチャンピオンデータしか持ってこないという状況において、開発プロセスの中に品質工学の考え方を取り入れる際に、ノイズの考え方が重要であるとの発表があった。

**3) 発表②: 「MSRにおける項目診断の研究」 (大見)**

MSR法は他の回帰式と比較すると寄与率が高いが、要因診断をする方法が無い。そこでMSR法で計算された回帰係数から回帰式を作成して、直交表を使い診断した事例を発表した。

**4) 発表③: 「MTシステム検出感度の研究」 (牧野)**

MT法には、6種類ある。今回、異常が明確になっているデータを活用して、アングルトライ社のソフトに入っている5種類あるソフトを比較した。それぞれのソフトの貢献度について、研究した結果について報告した。この研究成果は、2020年の品質工学研究発表大会で、報告する。

**5) 講演: 「日産自動車 QVCプロセスについて」 (奈良)**

日産の奈良様からQVCプロセス(書籍で発売されている)について講演があった。QVCプロセスは「目標設定フェーズ」「技術構築フェーズ」「技術ストック」に分かれている。目的は「品質ばらつき抑制技術の開発」である。品質工学に関係するフェーズは「技術構築フェーズ」である。ここでは機能展開を物理式を使ってパラメータ設計を行うようになっている。ここで物理式を使うことによって特性値に加法性を持たせるように巧妙なしくみになっている。

以上